



ホワイトボードが会議にもたらす効果



中小企業診断士
米倉 博彦

これまで、この連載でいろいろな業務効率化の手法を提案してきた。今回は、会議を効率化するためにホワイトボードがいかに有益かについて熱く語ってみようと思う。

筆者は、サラリーマン時代にシリコンバレーに出張し、グーグルの本社で打ち合わせをしたことがある。その際、社内見学もさせてもらった。ホワイトボードがいたるところにある環境に触れて、クリエイティブな企業はこうあるべきなんだ!と感動したことをおぼえている。

それから筆者は重度のホワイトボードマニアになってしまった。帰国後、自己負担で机の横に「マイホワイトボード」を設置して上司に煙たがられていたほどだ。

昨年末に事務所を引っ越したのだが、壁の一部に特殊な塗料を塗布してホワイトボードにしている。玄関前のパーティションもホワイトボードになっている。写真には写っていないが、自分のデスクの横にもホワイトボードを設置し、ホワイトボードマニアとして理想の事務所を作ることができた。(図1)

筆者の義弟いわく、大手自動車会社の会議室も壁面すべてがホワイトボードになっているそうだ。

図1：ホワイトボードに囲まれたミーティングスペース



■ホワイトボード活用のメリット

経営コンサルタントとして様々な会社の会議に参加してきて、会議室にホワイトボードがあるかないかで会議の生産性が大きく変わることがわかった。

以下、私の考えるホワイトボードの利点を列挙する。

1) 議論の見える化。

最大のメリットは、いま何のことを話しているのかを、会議の参加者全員で共有できることだ。

口頭での説明だけでは、話を聴いていない人、いまだどこを読んでいるかがわからなくなり、そのまま理解

を諦めてしまう人が発生する。しかし、ホワイトボードにいまの議題をしっかりと書き、会議で出てきた意見を書き留め、場合によっては図表やイラストを駆使することで、議論が見える化することができる。

見える化できれば、会議の理解度や満足度の向上に繋がる。しっかりと理解でき、内容も納得いくものであれば、会議で決定した内容を実現するための行動も素早く、正確に行うことができるだろう。

2) 広い視野をもって議論ができる。

ホワイトボードは、書くことのできる面積がA4やA3のコピー用紙などに較べて広い。思考は、書く領域の広さに制限を受けると思う。逆に言えば、書く面が広ければ、それだけ広い視野をもって議論をすることにつながる。

筆者はA4サイズのホワイトボードを持っている。しばらく利用してみて、これなら同じサイズの紙にペンで書いてもやれることはあまり変わらないなと思った。単にホワイトボードであればどんな大きさでもよいというわけではなく、その広さも重要であるようだ。

ちなみに、付箋の場合は取えて大きさを限定し、枚数を多く使うことで、思考を細かく分けているところがポイントなのだと思う。

3) 参加者の意識・視点を集中させ、会議に一体感が生まれる。

配付資料だけの会議であれば、参加者は下を向いて資料を確認しながら、発言者の言葉だけを耳で聞くことになる。これでは会議の一体感も生まれにくい、参加者それぞれの理解度もよくわからない。

ホワイトボードを用いて議論すれば、参加者全員がホワイトボードを見ることになる。参加者の視線は一点に集まり、いまメンバーが何の話題についてどういう議論をしているかを全員がより理解することができる。

プロジェクターにも同じ効果がある。

ちなみに筆者は、セミナーによっては配付資料を配らないことがある。これは参加者に下ではなく前を向いて一体感をもってセミナーを受講して欲しいからだ。



配付資料とにらめっこするだけなら、メールで資料を送って個別に見てもらえば用は足りる。

4) 意見と個人を切り離すことができる

ホワイトボードに書くことは、意見そのものと、発言した個人を切り離すことにつながる。会話でのやりとりだと、どうしても「誰が発言したか」が気になり、合理的な判断ができなくなってしまいがちだ。あの上司の言うことは基本反対! というような態度の人も、ホワイトボードに書かれた「意見そのもの」に関しては冷静に考えることができる。

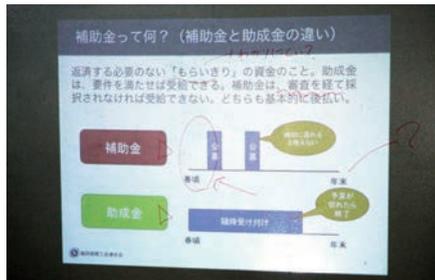
また、自分自身の意見を客観的に眺めることができるという点でもメリットがある。

5) プロジェクター+ホワイトボードの活用

プロジェクターの画像を、スクリーンや壁面ではなくホワイトボードに投影する方法も便利だ。特に資料のレビューなどで効力を発揮する。(図2)

ホワイトボード上に修正事項を書き込めるので修正が早くすむ。印刷資料の配布と比較して、修正指示の抜けや漏れ、指示内容の誤解が減る。

図2：ホワイトボードにプロジェクターで画面を投影、修正事項を書き込む。



6) 姿勢の重要性

テーブルの上に置くタイプのホワイトボードを試したことがあるが、自立式のホワイトボードほど「議論が進んでいる感」を得ることができなかった。もしかしたら、立って書くという姿勢そのものに秘密があるのかもしれないと思っている。

立ち上がることで血流が良くなり、頭脳が活性化するのはだろうか?

ちなみに当社には立ったまま打ち合わせができる、少し高さのあるテーブルを設置している。(図3)

図3：テーブルが高く、立ったまま打ち合わせや仕事ができるテーブル



番外) 議論のコントロール

板書担当者は、ホワイトボードに「何を書くか」「何を書かないか」を調整することで、議論を一定の方向に誘導することもできる。悪意をもってこのような行為をやる方もいるので、騙されないように気をつけて欲しい。

知人社長いわく、「ホワイトボードを使えば議論を支配することができる」そうだ。通常、板書担当は経験の浅い社員にさせることが多いが、あなたの会社の会議はそのせいで議論がまとまらないのではないだろうか。

■まとめ

SEや経営コンサルタントとしてのこれまでの経験から、十分に広いホワイトボードはアイデアを生み出したり議論をまとめるために必須であると確信している。

会議室にホワイトボードがない方は、ぜひ導入を検討してほしい。いまは紙のように丸められるタイプや静電気壁に吸着するタイプなど、場所を取らない種類のホワイトボードもある。

ホワイトボードの活用法についてさらに学びたい方は、ファシリテーション・グラフィック(堀公俊、日本経済新聞社刊)という本を参考にするといいだろう。(図4)

図4：ファシリテーション・グラフィックの内容。ホワイトボードの板書方法について詳しく記載されている。



参加した会議がだらだらと進行して何も決まらないとき、私は司会でもないのに立ち上がってホワイトボードの前に行きマーカーを握ってしまう性癖がある。コンサルタントとして必要な能力?おせっかい?だとは思うのだが、これまで私と同じ会議に出席して「何であいつが仕切るんだ?」と不快に感じた方、この場を借りて謝ります、ごめんなさい。